

たどつのもかし

Vol. 17 2017.1.20 発行

・香川氏の居城「多度津城」の痕跡か？

多度津町は中世の室町時代に香川氏という細川氏の部下が拠点としていた時期があります。香川氏の戦の時の詰城は善通寺市・三豊市・多度津町にまたがる天霧山に天霧城として存在していました。この城跡は現在、国指定「天霧城跡」となっています。戦時下の詰城は天霧城だとして、通常時に住んでいた城、つまり居城も近くに有ったと考えられています。それが多度津山、現在の桃陵公園があるところに本台(山)城、ある

いは多度津(山)城と呼ばれる居城です。ここに居城が設けられたことが多度津の発展の要因の一つになったといえるのです。

しかしこの多度津城、『多度津町誌』や『多度津町史』でもここに城があったと紹介され、町史のほうには、石垣・石段・古井戸があると記載されているものの、現状で確認できるのは一部の石段のみ(写真1)で、石垣(石垣の残りとしていたものは当時のものではない)や居館の痕跡は確認できません。埋蔵文化財としてもこの場所は「多度津城跡」とされてはいるものの、出土遺物や建物痕が発見された事はありませんでした。もともと桃陵公園が造られる時に、当時の陸軍第11師団によって相当徹底的に地均しが行われた事によって、埋蔵文化財も残っていないのではないかと評価もあります。そのため多度津城がほんとにあったのか、何処にあったのか本当のところははっきりしていません。

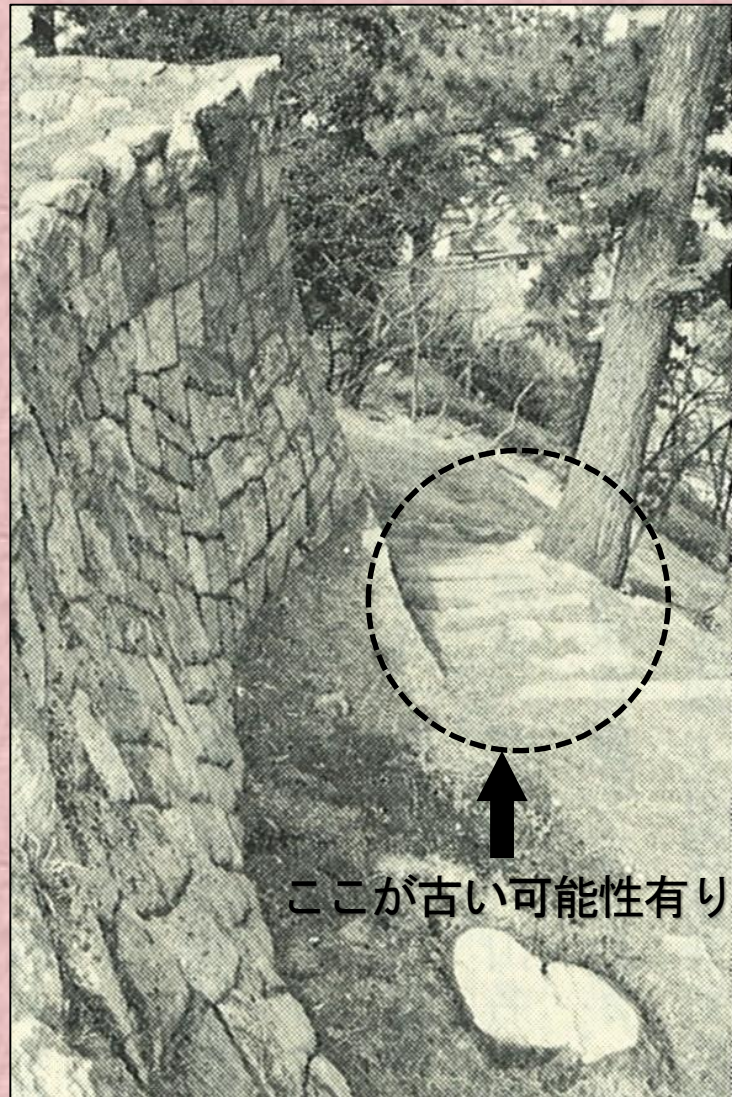


写真1 多度津城の痕跡

(町史では石垣もあるとしているが、実際は石段の一部のみ)

今回カリヨン近くの工事の為に、桃陵公園の地表下の状況を確認する機会がありました。そのとき発見したのが写真2の柱穴です。掘る範囲が狭く、発見できたのは1つだけです。そのためこれが建物のあとかどうかは断定できませんが、柱穴の埋土の中から中世の土師器片が出土しました。



写真2 今回発見した柱穴

多度津城があったとされる

時期と符合します。そのため桃陵公園のある場所には少なくとも中世の何らかの建造物が存在していたとは言うことができます。今後さらに色々な発見があれば、多度津城の本来の姿を明らかにすることができるかもしれません。

トピック：新資料「土器棺(壺棺)」

時期： 弥生時代後期

出土遺跡： 木下遺跡(本通)

遺体を土器に納めて埋葬した墓で利用された棺。本来はこの壺一つではなく蓋になる土器とセットになっています。今回の土器棺は多度津山の東斜面下の本通にある木下遺跡から出土したものとされています。

この土器棺は土器の口縁部(穴の部分)を打ち欠いています。普段使われる土器と分けるためにそのような加工をしています。多度津町では今まで、ほとんど出土例がありませんが、上流部の善通寺市には弥生時代後期頃の多くの土器棺が出土しており、その形も同系統のものであると考えられます。今回ほぼ完形品としているものは町内初です。

多度津町の弥生時代は善通寺市から続く弘田川流域の白方地区を中心とする地域と、直接的に善通寺市と隣接する町域の南側に集中すると考えられていましたが、今回確認された遺跡は弘田川の流れる白方地区とは多度津山を挟んで逆側に位置します。木下遺跡の広がりには現状では確認できていないため、どの程度の規模だったかは分かりませんが、少なくともこの土器棺の製作された弥生時代後期段階ではすでに多度津地区にも人々の活動が広がっていたのではないかと考えられます。

